

3 大規模直売所

JAえちご上越 旬彩交流館あるるん畑（上越市）

【総合化事業計画認定】

- ・平成18年に消費者に支持される直売所を目指し、「四季彩交流館あるるん畑」を開設
- ・消費者との意見交換会や多くのイベントを開催すると共に、冬期間の品揃えとして雪下・雪室野菜の栽培を推奨するなどして年間を通じた取扱量を拡大
- ・平成26年、地元農畜産物を利用した新商品の開発と販売及びレストラン営業事業について、総合化事業計画の認定を受ける
- ・平成28年、幅広い世代の顧客確保をねらい、直売所隣接地にレストランや、スイーツ・総菜・パン等の販売店、体験農園等を備えた複合施設「あるるんの杜」を開設
- ・レストランでは、雪下・雪室野菜や、管内の飼料用米で飼育した「米っしいポーク」、「米っしいビーフ」などのこだわり食材を使用したメニューを提供
- ・平成30年、「あるるん畑」と「あるるんの杜」及び鮮魚販売の「あるるんの海」が一体となった食と農のテーマパーク「上越あるるん村」がオープン
- ・平成29年度の「あるるん畑」の商品の地場産比率は78%を占め、来店者数は38万人に上る



JA新潟みらい ファーマーズ・マーケット いっぺこ〜と（新潟市西区）

【総合化事業計画認定】

- ・平成26年、既存直売所と連携した新たな大型農産物直売所の運営事業について、総合化事業計画の認定を受け、平成27年開設
- ・広域JAの特性を生かし、新潟市西区の砂丘地帯を中心とする野菜産地、信濃川沿いの果樹産地、五泉市・阿賀町の中山間地域など、多様な園芸産地から農産物を供給
- ・直売所に総菜・豆腐・ジェラート等の加工施設を併設し、地元農産物を活用した加工品の商品開発を行い、豊富な品揃えを実現
- ・様々なイベント等を通じて地元農産物の地産地消を推進しており、年間来客数は約40万人に上る



4 農商工連携の取組

J A新潟みらい かんしょ部会 （新潟市西区）

- ・ 農業者の高齢化等により農作物の作付面積が減少し、耕作放棄地の増加が問題となっていることから、平成20年、J A、行政及び関係機関による新規品目検討プロジェクトチームを設置し、平成21年から「かんしょ」栽培を推進し、芋焼酎の試作にも取組（平成21年：0.1ha、平成24年：5ha、平成27年：17ha、平成30年：21ha）
- ・ 平成22年、地元商工会へ働きかけて新潟西地区農商工連携協議会（現在は「いもジェンヌ農商工連携協議会」）を立ち上げ、地元菓子店（7業者）や新潟大学との連携により、かんしょペーストを使ったスイーツの商品化に取組
- ・ 平成23年、新潟大学との連携によりブランド名「新潟砂丘さつまいも『いもジェンヌ』」（J A新潟みらいが商標登録）、ロゴマークを決定し、生食用や菓子等加工品への一体的な表示により差別化・ブランド化を促進



新潟市北区特産物研究協議会 （新潟市北区）

- ・ 平成24年、協議会（平成22年設立）の取組として、耕作放棄地対策で新たな品目として導入されたかんしょ「シルクスweet」を使った特産品開発に着手
- ・ 農業委員会とかんしょの栽培に取り組んだ新潟医療福祉大学の学生が商品開発に参加し、試作したスイーツ8品のうち1品を地元菓子店が商品化して販売
- ・ 平成25年以降も、産学官連携の取組を継続し、スイーツ商品の開発のほか「大学は美味しい」フェア等への出展、東京のレストランや地元料理店と連携したメニュー開発など、多方面に展開
- ・ 平成28年、市が公募によりブランド名「しるきーも」を決定し（J A新潟市が商標登録）、イベントや見本市への出展等によりブランド化の取組を推進
- ・ 平成29年からは、北区内の笹山小学校や飲食店らと連携して商品を開発し、百貨店などで販売
- ・ 作付面積は平成24年10aから平成30年4haに拡大。これまでに30品以上の商品を開発・販売



おぢや食おこし隊（小千谷市）

- ・平成22年から小千谷商工会議所が事務局となり、農商工が連携した「おぢや食おこし隊」事業を実施
- ・小千谷の「食」について農商工業者が連携を強化し、新たな特産品を開発することで需要を開拓し、地域経済の活性化、雇用増大を目指す
- ・小千谷の食材を使った付加価値の高い地域産品「コシヒカリまめたんぼ」や「おぢやパン」のほか、「よし太くん焼き」の焼き器など開発
- ・平成27年から「おぢや☆ちまき」の商品化に向けて、「おぢや☆ちまき総選挙」を開催し、市民投票で人気があったちまきを商品化し、商工の1業者が「おぢや☆ちまき」の製造・販売に異業種から参入
- ・また、農業者と食品関係者のマッチングを行う「きっかけづくり交流会」を開催。これまで、市内のそば店がかぐら南蛮を使った「みどりのラー油」を開発・販売



越後姫の農商工連携の取組（柏崎市）

- ・商工会議所、観光協会、県菓子工業組合支部、J A、市村、県等による柏崎地域6次産業化ネットワーク会議を設置（平成22年度～平成25年度）
- ・ネットワーク会議の活動により、農業者の「越後姫の販路拡大」の意向と、菓子工業組合の「地元産原料を使用した新商品づくり」のニーズをマッチングしたことで、地元産越後姫を活用した商品開発が加速
- ・J A柏崎越後姫部会において冷凍した越後姫を安定的に出荷し、菓子組合加入店が焼ドーナツ、ロールケーキ、ジェラート等の商品を販売する取組を継続



燕三条「畑の朝カフェ」 （三条市・燕市）

- ・ 燕三条地域の農産物や農業の魅力を消費者に伝えてブランド化を図ることを目的とする、農業、流通、工業、情報産業など各分野の専門家による異業種連携プロジェクト
- ・ 「農産物の価値は生産現場にある」との考えのもと、地域内の果樹園や畑、棚田などを会場に、田畑のロケーションを活かした農園体験型カフェを開設
- ・ 畑仕事などのミニ農作業体験や農園主との交流と併せ、採れたての野菜や果樹を使ったメニューを提供
- ・ また、燕三条産のカトラリーやアウトドア用品など、世界的に評価の高い工業製品を用いて田畑での癒やしの空間を演出
- ・ 年間8回程度の開催であるが、県内外から定員を超える参加応募があることも多く、交流人口の拡大、地域の活性化に寄与
- ・ 農業者は、「畑の朝カフェ」を通じて顧客を確保し、直接販売が増加



asa café
tsubamesanjo style café

5 農観連携の取組

田上町農商工連携地域協議会（田上町）

- ・ 地元農産物の規格外品を活用した旅館の新デザート「湯田上SWEETS」の開発に取組（平成21～22年度農商工連携推進モデル事業を活用）
- ・ 旅館業者や生産者等が連携し、地元農産物の規格外品の供給体制を整備し、各旅館において、通年で旬の食材（地元農産物）を活用したデザートを開発して提供
[冬～春：越後姫、春～夏：えだまめ・桃、夏～秋：梅、秋～冬：ル レクチュエ]
- ・ HPや情報誌掲載等による消費者へのPR活動を展開
- ・ 第12回（平成21年）「人に優しい地域の宿づくり賞」厚生労働大臣賞を受賞
- ・ これらの取組をきっかけに、地域食材を活用した商品開発の取組を拡大



松之山農商工連携地域協議会（十日町市松之山地区）

- ・ 農業者、旅館業者等が連携する協議会を立ち上げ、松之山温泉6旅館が提供する地元農産物等を活用した料理メニューとして、棚田鍋（冬季）、まんまの前菜、朝まんま（通年）の開発に取組
[春：山菜、夏：やたら、秋：きのこ、冬：とろろ]
- ・ 朝まんまの取組は、平成22年度全国旅館ホテル生活衛生同業組合青年部全国大会において青年部長賞（グランプリ）を受賞したほか、新潟県旅館ホテル組合の「にいがた朝ごはんプロジェクト」に拡大し、平成24年度全旅連青年部全国大会で新潟県旅館組合青年部が全旅連青年部長賞（グランプリ）を受賞
- ・ 新たな取組として、前菜と地酒のコラボした「にいがた地酒の宿」を全県的に展開し、平成26年度全旅連青年部全国大会において新潟県旅館組合青年部が青年部長賞（グランプリ）を受賞
- ・ 県内の宿泊施設、農業者、加工業者が力を合わせたにいがた朝ごはんプロジェクト、にいがた地酒の宿、大地の芸術祭の取組が総合的に評価され、新潟県旅館ホテル組合が第6回（平成26年）観光庁長官表彰を受賞

